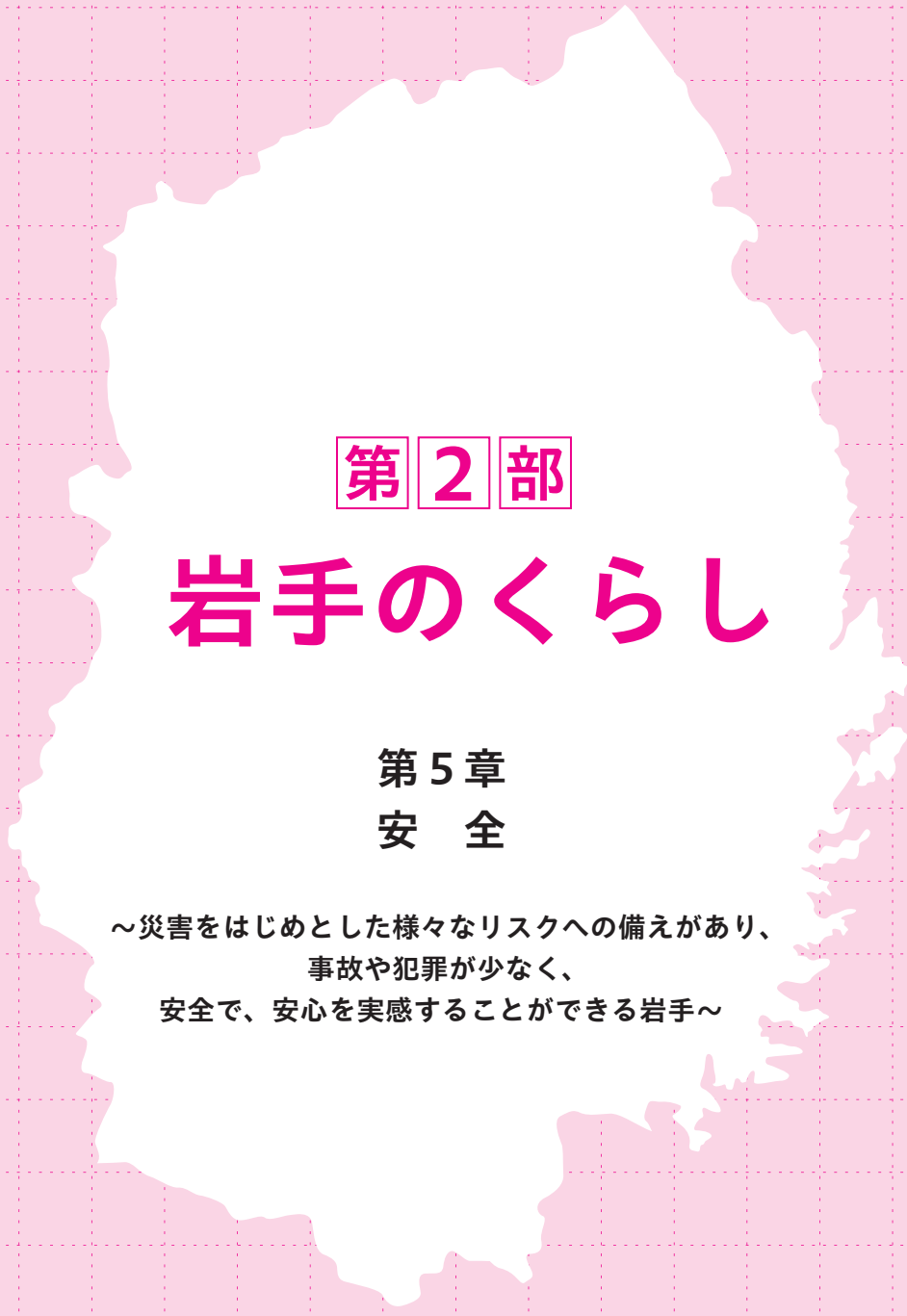


A white silhouette of Iwate Prefecture is centered on a pink background with a light pink dashed grid. The text is placed within this white area.

第2部

岩手のくらし

第5章 安全

～災害をはじめとした様々なリスクへの備えがあり、
事故や犯罪が少なく、
安全で、安心を実感することができる岩手～

交通事故件数は減少が続く

■ 人口千人当たりの刑法犯認知件数は全国平均を下回る

刑法犯認知件数（人口千人当たり）の推移をみると、本県、全国平均共に2年連続で増加しました。本県の件数は全国平均を下回って推移しており、令和5年（2023年）は2.5件と全国平均より3.2件少なくなっています（図1）。

■ 刑法犯検挙率は全国平均を大きく上回る

令和5年（2023年）の本県の刑法犯検挙率は53.7%と2年連続で低下しました。なお、全国平均の38.3%と比べると、15.4ポイント上回っています（図2）。

■ 検挙人員は11年ぶりの増加

本県の刑法犯の検挙人員は11年ぶりに増加しました。令和5年（2023年）は前年から84人増加し、1,039人となっています。また、検挙人員に占める少年（14歳以上20歳未満）の割合は前年と比べて2.0ポイント高い9.0%となっています（図3）。

■ 交通事故件数は減少が続く

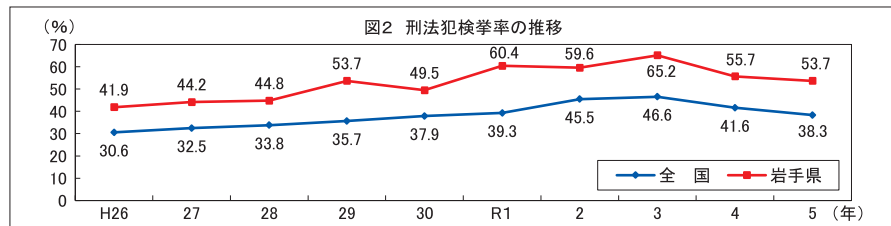
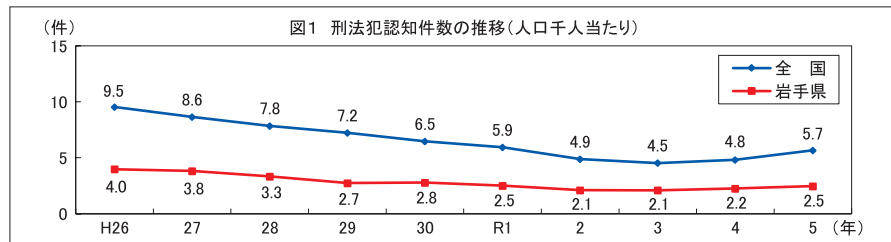
令和5年（2023年）の本県の交通事故件数は1,503件（前年比0.5%減）となり、令和元年（2019年）以降、4年連続で減少しています。令和5年の人口10万人当たりの交通事故件数は129件で、全国平均の248件を大きく下回る状況が続いています（図4）。

■ 交通事故100件当たりの死亡者数及び負傷者数は共に2年ぶりに減少

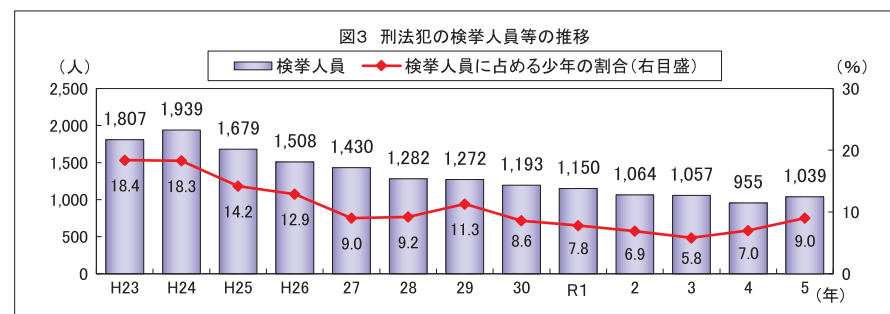
令和5年（2023年）の交通事故による死亡者数は35人（前年比2人減）となり、2年ぶりに減少しました。事故100件当たりの死亡者数は2.33人で、全国平均の0.87人の約2.7倍となるなど、全国平均を大きく上回る状況が続いています（図5）。

一方、令和5年の交通事故による負傷者数は1,796人（前年比0.9%減）となり、令和元年（2019年）以降、4年連続で減少しています。事故100件当たりの負傷者数は118.7人と減少に転じましたが、全国平均の118.7人を上回っています（図6）。

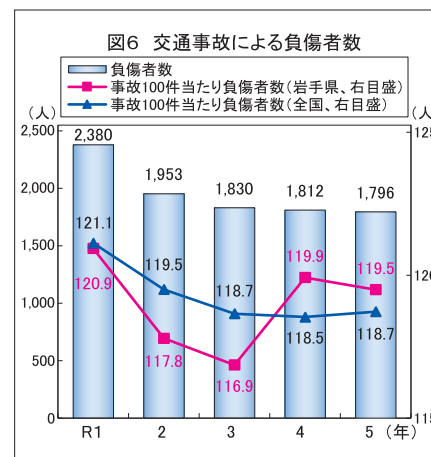
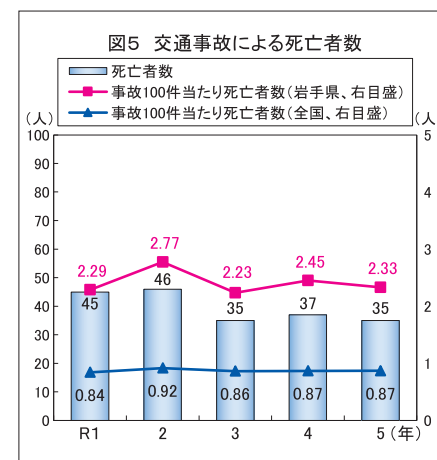
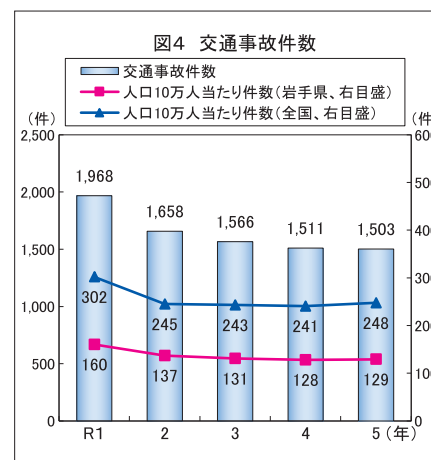
死亡者に占める高齢者（65歳以上）の割合をみると、65.7%となっており、全国平均の54.7%を上回っています（図7）。



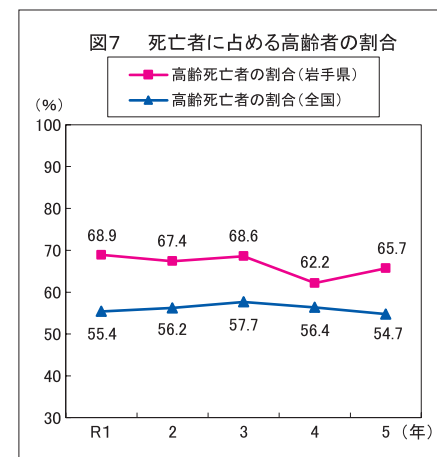
以上資料：警察庁「年間の犯罪」、総務省統計局「人口推計」、同「国勢調査」、県ふるさと振興部「岩手県人口移動報告年報」（岩手県毎月人口推計）



資料：警察庁「年間の犯罪」



以上資料：警察庁「警察白書」、県警察本部「交通事故発生状況」、総務省統計局「人口推計」、同「国勢調査」、県ふるさと振興部「岩手県人口移動報告年報」（岩手県毎月人口推計）



高い「食の安全・安心」に対する関心

■ 食品の安全性又は信頼性に不安を感じない環境については8割台後半が重要と意識

令和6年県の施策に関する県民意識調査によると、「購入する食品の安全性又は信頼性に不安を感じない環境であること」について、重要（「重要」＋「やや重要」）と意識している人の割合は、県計で87.2%となっています。広域振興圏別では、重要（「重要」＋「やや重要」）の割合が最も高いのが県央で89.4%、最も低いのが県北で85.0%となっています（図1）。

また、満足（「満足」＋「やや満足」）と意識している人の割合は、県計で39.0%となっており、不満（「不満」＋「やや不満」）の13.2%を上回っています。広域振興圏別では、満足（「満足」＋「やや満足」）の割合が最も高いのが県北で41.2%、最も低いのが県南で36.5%となっています（図2）。

■ 食品の表示を確認している人は8割台前半

令和6年県民生活基本調査によると、普段の買い物の際に、食品の表示を確認している人の割合は、82.6%となっています（図3）。

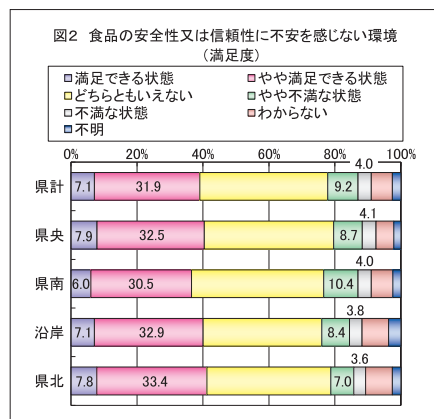
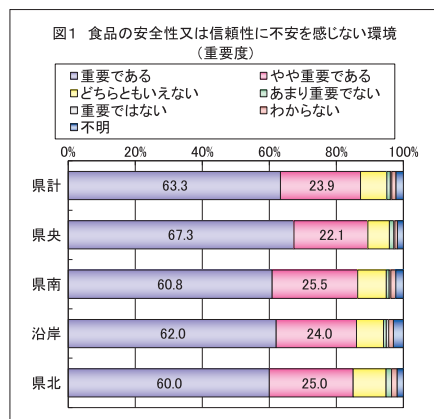
確認している内容は、「日付（消費期限、賞味期限など）」が最も多く99.1%、次いで「原産地、原産国」の90.2%、「保存方法」の90.0%となっています（図4）。

■ 農薬や添加物等食品そのものの安全性への不安を感じている人は5割台後半

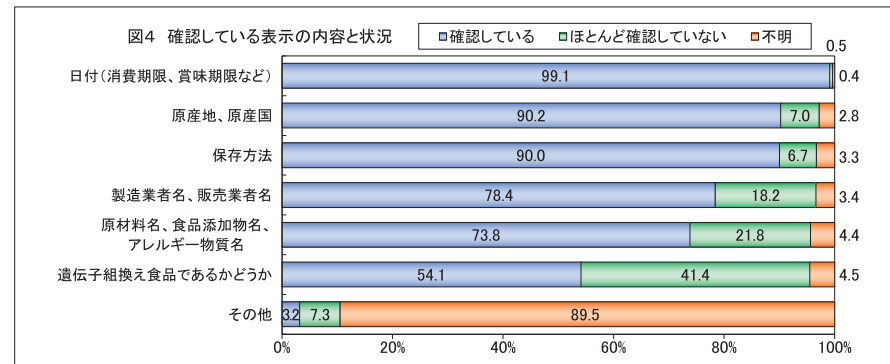
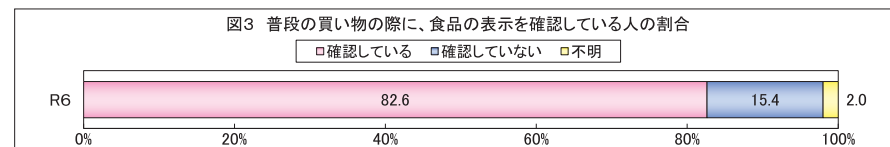
令和5年度食の安全安心及び食育に関する意識調査によると、食品に対して不安を感じることとしては、「農薬や添加物等食品そのものの安全性」が最も多く57.6%、次いで「輸入食品の安全性」（55.7%）、「産地偽装等の偽装表示」（42.4%）の順になっています（図5）。

■ 県内産の農林水産物を利用している人は8割台前半

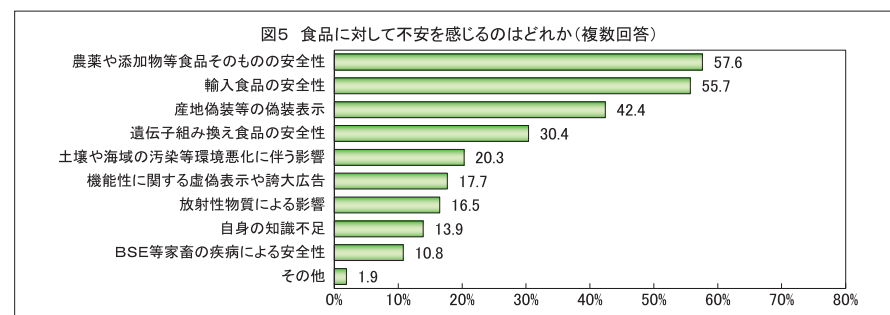
令和6年県民生活基本調査によると、普段、県内産の農林水産物を利用している人の割合は82.9%にのぼっています。利用している理由としては、「新鮮だから」が最も多く66.8%、次いで「安全・安心だから」（59.8%）となっています（図6、7）。



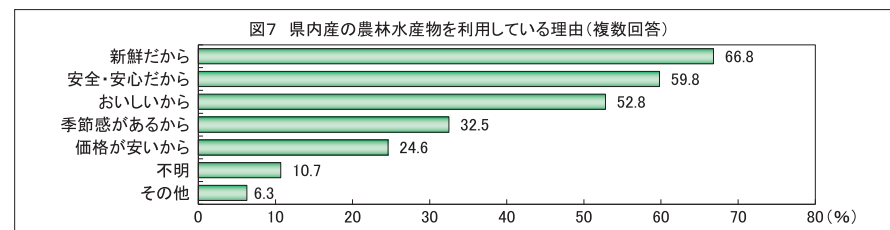
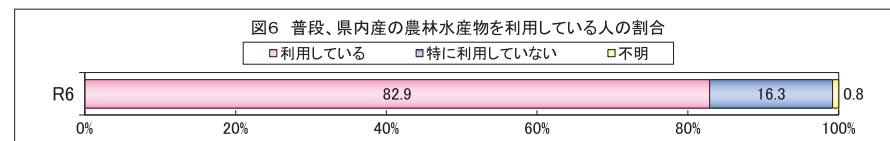
以上資料：県ふるさと振興部「令和6年県の施策に関する県民意識調査」



以上資料：県ふるさと振興部「令和6年県民生活基本調査」



資料：県環境生活部「令和5年度食の安全安心及び食育に関する意識調査」



以上資料：県ふるさと振興部「令和6年県民生活基本調査」

